**ダンス授業における生徒のグループ創作活動の事例研究**

**～教師の関わりとの関係を中心として～**

**△△△△△△△大学　○○○○　　　　指導教員　□□□□□**

【目的】本研究では、創作ダンスの授業における生徒の作品創作時のグループのグループ活動の実態を明らかにすることを目的としている。特に教師との関わりと生徒のグループ活動の関係性に焦点を当て、発話と活動の変化の様子を客観的指標に照らし合わせ観察・分析した。

【方法】O大学附属中学校O.M教諭と、同中学校２年KU組女子40名（今回は19人4グループのみ）を対象にした。また、授業場面とグループ活動の様子をVTR、教師と生徒の発話をICレコーダーに収録し分析した。対象授業は6回の単元(①オリ②ディズニーランド③大回り小回り④彫刻の森⑤課題の連続⑥課題の連続・応援合戦)の中の④を対象に分析した。

【結果及び考察】

1)1単位時間における授業分析(期間記録・逐語記録・形成的授業評価)

①期間記録はM(マネジメント)が11.0%、A2(運動学習)が53.0%となつた。②逐語記録は相互作用が58.9%と約6割を占めた。③形成的授業評価は「楽しかったですか?」といぅ質問項目以外全て5段階評価の5点という結果になった。①・②・③の結果を高橋らの先行研究における授業観察の指標に照らし合わせるとM教諭の授業は質の高い授業であると言える。

2)作品創作時におけるグループ活動の分析(学習行動記録・逐語記録)

①学習行動記録において、「座って話す、立って話す、オフタスク」を合わせた時間が一番多いのはDグループとなった。一方、「動きの小・中・大」を合わせた時間が一番多いのはCグループとなった。②逐語記録において、発話総数が一番多いのはDグループで、Q(提案)が多いという結果になった。一方、発話総数が一番少ないのはCグループで無駄話が少ないという特徴が見られた。①・②の結果を踏まえると、一番作品評価の高いCグループは動きながら、話し合い、集中して作品を創っていると考えられる。

3)作品の評価結果

･･････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････････後略･･････････**28行**以内です･･････････